

令和5年度  
事業計画書

障害者支援施設 緑風園

## 目 次

1 事業運営計画-----	P 1
2 実施施策の令和5年度行動計画-----	P 3
(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり-----	P 3
(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上-----	P 7
(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立-----	P 10
3 目標利用率-----	P 14
4 固定資産物品購入計画-----	P 14
5 修繕計画-----	P 14
6 大規模修繕計画-----	P 14

---

## 1 事業運営計画

事業の種類及び利用定員	
1 障害者支援施設	
(1) 施設入所支援	80名
(2) 生活介護	80名
2 短期入所	4名
3 共同生活援助	20名
4 相談支援	
運営方針	
1 障害者支援施設	<p>(1) 利用者に対して、その自立と社会経済活動への参加を促進する観点から、利用者の能力や特性、環境などに即した適切な介護や支援を行うものとする。</p> <p>(2) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場にたった福祉サービスを提供するよう努めるものとする。</p> <p>(3) できる限り居宅に近い環境の中で、地域や家族との結びつきを重視した運営を行い、市町村、指定障害者支援施設や障害福祉サービス事業を行う者、その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。</p> <p>(4) サービスの自己点検と評価を定期的、継続的に実施するなど必要な措置を講じ、さらなる福祉サービスの質の向上を目指すものとする。</p> <p>(5) 極めて公共性・公益性の高い事業に取り組んでいることから、事業の持続的発展を図るため、安定的な経営と福祉サービスを支える人材の育成に努めるものとする。</p>
2 短期入所	<p>(1) 利用者に対して、その自立と社会経済活動への参加を促進する観点から、利用者の能力や特性、環境などに即した適切な介護や支援を行うものとする。</p> <p>(2) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場にたった福祉サービスを提供するよう努めるものとする。</p> <p>(3) できる限り居宅に近い環境の中で、地域や家族との結びつきを重視した運営を行い、市町村、指定障害者支援施設や障害福祉サービス事業を行う者、その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。</p> <p>(4) サービスの自己点検と評価を定期的、継続的に実施するなど必要な措置を講じ、さらなる福祉サービスの質の向上を目指すものとする。</p> <p>(5) 極めて公共性・公益性の高い事業に取り組んでいることから、事業の持続的発展を図るため、安定的な経営と福祉サービスを支える人材の育成に努めるものとする。</p>
3 共同生活援助	<p>(1) 利用者に対して、その自立と社会経済活動への参加を促進する観点から、利用者の能力や特性、環境などに即した適切な介護や支援を行うものとする。</p> <p>(2) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立った福祉サービスを提供するよう努めるものとする。</p>

- (3) できる限り居宅に近い環境の中で、地域や家族との結びつきを重視した運営を行い、市町村、指定障害者支援施設や障害福祉サービス事業を行う者、その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。
- (4) サービスの自己点検と評価を定期的、継続的に実施するなど必要な措置を講じ、さらなる福祉サービスの質の向上を目指すものとする。
- (5) 極めて公共性・公益性の高い事業に取り組んでいることから、事業の持続的発展を図るため、安定的な経営と福祉サービスを支える人材の育成に努めるものとする。
- (6) 「障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準」に定める内容のほか関係法令を遵守し、事業を実施するものとする。

#### 4 相談支援

- (1) 利用者が地域で安心して自立生活を送るため、日々の暮らしの中で抱えているニーズや課題にきめ細かく対応し、必要に応じた相談支援に努めるものとする。
- (2) 様々なサービスや地域資源等を活用しながら、地域で自立して安心して暮らしていけるように、次の観点から相談支援の充実を目指すものとする。
- ア 地域における相談支援事業者との連携、強化を図る。
- イ 利用者の自立した生活を支え、ニーズや抱えている課題の解決や障害福祉サービスの利用に向けて、ケアマネジメントの充実を図る。
- ウ 地域における相談支援体制の強化と質の向上を図るために、市町村と連携を図り、総合的な相談支援体制の充実を目指す。

#### 職種別職員配置

##### 1 障害者支援施設・短期入所

職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
施設長	1			1
事務職員	2	1		3
栄養士	1			1
調理員	2	3	1.4	6.4
自立支援課長	1			1
サービス管理責任者	3			3
生活支援員・職業指導員	15	21	5.7	41.7
看護職員	3			3
夜間支援員			2	2
警備従事者			1.0	1.0
用務員			2.4	2.4
合計	28	25	12.5	65.5

##### 2 共同生活援助

職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
管理者	(1)			(1)

サービス管理責任者	(1)			(1)
生活支援員	1	2	1.0	4.0
夜間支援員				
世話人			2.5	2.5
合計	1 (2)	2	3.5	6.5 (2)

3 相談支援

職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
管理者	(1)			(1)
相談支援専門員	1			1
合計	1 (1)			1 (1)

県市町村等からの受託、補助事業等

- 1 日中一時支援事業（邑南町、川本町、大田市、北広島市）
- 2 相談支援事業（邑南町）

地域における公益的な取組

- 1 災害、生活困窮等の理由により一時的に宿泊場所が必要な方に対する空き居室を利用した宿泊場所の無償提供
- 2 邑南町社会福祉法人・医療法人地域貢献連絡協議会における、地域ニーズに即した地域における公益的な取組の実施
- 3 四ツ葉の里運営協議会における地域の障がい者、高齢者と住民の交流を目的とした四ツ葉の里夏祭りの開催

2 実施施策の令和5年度行動計画

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	職員募集の強化
取組の方向性①	人口が少ない地域であるため、採用情報を近隣市町村へ拡げ、定期的に情報提供を行ない、職員採用に繋げる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおなんケーブルテレビを利用し、園の施設紹介や求人情報を発信する。(継続)</li> <li>・ 邑南町地域みらい課、ハローワーク、シルバー人材センター、人材紹介会社などを通じて求職者の動向を把握することで、効果的な求人活動を行えるようにする。(変更)</li> <li>・ 四ツ葉の里の魅力を情報発信するため、四ツ葉の里運営協議会で四ツ葉の里のPR用のチラシを作成し、関係機関等に配布する。また、四ツ葉の里で協力し人材確保策を検討する。(新規)</li> <li>・ 職員への口コミが最も有効な手段であることから、職員への情報提供</li> </ul>

	を適時適切に行う。(新規)
取組の方向性②	若い世代の情報収集手段であるソーシャルネットワークを駆使することにより、若い世代に対し情報発信を行い、施設への関心を持ってもらう。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報部会を中心に SNS やホームページで定期的な情報発信を行う。また、年間を通して計画的な情報発信を行えるようにするため、年度初めに掲載内容の年間計画を作成する。(変更)</li> <li>・ 若い世代に施設への関心を持ってもらえるような記事について、事業団の法人 PR チームの方針に基づき総務課及び広報部会で検討する。(新規)</li> </ul>

実施施策	中長期を見据えた人材の確保・発掘
取組の方向性①	地元の子どもたちが施設を気軽に利用できる環境づくりを行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の子ども等に福祉の仕事に興味をもってもらうため、子ども参観日を開催する。(継続)</li> <li>・ 「芋の苗植え」「芋堀り」「ミュージックケア」などの地域交流行事を行い、保育園児と交流を図る。(継続)</li> </ul>
取組の方向性②	地元の小学校、中学校、高校と積極的に交流し、利用者と学生とが触れ合う機会を増やすことにより、次世代の福祉の人材育成につなげる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民と利用者との交流促進のため、地域行事や催し物に積極的に参加できるよう地域交流部会で企画・実施する。(継続)</li> <li>・ 地元高校生と利用者との交流促進のため、地域交流部会を中心に矢上高校神楽同好会を招いて神楽大会を開催する。また、園全体の行事に、矢上高校にボランティアを依頼する。(継続)</li> <li>・ 社会福祉協議会主催のサマーボランティアなどの受入を行い、小学生や中学生と交流を図る。(継続)</li> <li>・ 緑風園の PR のため、広報部会を中心に広報誌「なないろ」を年 4 回作成し、地元自治会や学校関係に配布する。(継続)</li> </ul>

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	チームワークの向上 (互いを信頼する和の精神)
取組の方向性①	チームの目標など決定事項については、共通認識のもとに統一した支援を実践する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各部署やユニットで立てたチーム目標達成に向け、チーム実践力を高めるため、ユニット会議等で職員個々の役割を明確にするとともに、共通した支援ができるよう定期的に進捗状況の確認を行う。(継続)</li> <li>・ チーム目標達成の過程において、支援方法に悩んだときなどに外部の専門家を利用できるよう、障がい特性に応じてさまざまな外部の専門家から助言をもらえるように繋がりを作る。(新規)</li> </ul>

取組の方向性②	職員個々の長所に目を向けることにより、お互いを認め合う関係づくりを醸成する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員同士がお互い元気よく挨拶できるよう、園内研修でビジネスマナー研修を実施する。(新規)</li> <li>OJT 面談時に職員同士が感謝や労いを伝え合う場を持てるよう、正規以外の職員を対象とした OJT 制度(簡易版)の導入について検討する。(新規)</li> <li>職員同士がお互いの価値観を大切にしたいコミュニケーションができるようにするため、人材育成室主催のコミュニケーション研修に職員を派遣する。(新規)</li> </ul>

実施施策	個々の専門性の向上
取組の方向性①	各職種で新人職員の育成カリキュラムが作成されていないため、カリキュラムの作成及び実施計画を作成し、実施することで個々の抱える不安を解消し、人材の定着に繋げるとともに専門性の向上を図る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>正規職員以外の新規採用職員についても、指導担当者を配置するなど正規職員の指導担当者育成制度を活用した育成計画を作成する。(新規)</li> </ul>
取組の方向性②	事例検討や専門研修などの研修に積極的に参加し、専門性を持った職員の育成を行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に精神障がいのある利用者の困難事例に対する専門的見地からの指導が必要であることから、障がい特性に応じて外部機関や専門家に相談できる体制を作る。(新規)</li> <li>介護技術の向上を図るため、事業団他施設での介護経験がある職員を講師として介護技術研修を実施する。(新規)</li> <li>多くの職員が研修に参加できるよう、研修を動画保存し、誰もが後で視聴できるようにする。(継続)</li> </ul>
取組の方向性③	職務職階に応じた業務を担当させ「期待する、任せる、育てる」を実践することで、モチベーションの向上を図る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニットチーフ以外の正規職員を育成するため、ユニットチーフとの業務の振り分けについて検討する。(新規)</li> </ul>

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	施設内コミュニケーションの活性化
取組の方向性①	個々の意見を尊重する雰囲気を作ることにより、活発な意見交換を行えるようにする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議等で職員が自分の意見を言いやすい雰囲気を作るため、会議進行者となる職員を対象にファシリテーション技術の向上に関する研修を</li> </ul>

	実施する。(新規)
取組の方向性②	職場の課題や悩みを共有し、課題解決に向けた意見交換を行い、解決の糸口を見つけることにより、ストレスの軽減に繋げる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場風土診断の結果をもとに、各部署やユニットで対話の時間を設け、結果から得た気づきとその原因を分析するとともに、改善に向けたアクションプランを検討する。(新規)</li> </ul>
取組の方向性③	定期的にも上司との個別面談や他職種との意見交換の場を設定することで、職場内での風通しを良くする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>OJT面談を活用し、上司と意見交換を行う時間を設ける。(新規)</li> <li>担当者会議を有効活用し、職種間で意見交換を行う。(新規)</li> <li>職員間での信頼関係を構築するため、管理職が現場に出向いてコミュニケーションをとる機会を増やす。(新規)</li> </ul>

実施施策	施設外コミュニケーションの活性化
取組の方向性①	同じ趣味を持った職員同士や子育て世代、園で働く職員の家族を巻き込んだ関係性づくりを行い、職員の横のつながりを強化することにより、仲間意識の醸成や人材定着に繋げる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の子ども等に福祉の仕事に興味をもってもらうため、子ども参観日を開催する。(再掲)(継続)</li> </ul>
取組の方向性②	業務外で職員スポーツ大会の開催やレクリエーション活動を企画し、職員のリフレッシュやコミュニケーションを促進する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>福利厚生部会を中心に、カフェなどの職員の交流を目的とした活動を企画実施する。また、職員互助会との合同企画についても検討する。(継続)</li> </ul>

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	笑顔で働ける施設 (ストレスのない職場作り)
取組の方向性①	労働時間のモニタリングを行い、毎月の時間外労働の状況を把握し、慢性的に時間外勤務が多い職員に対し面接を行ったり、状況に応じて業務の分担等を行うことで、ストレスをため込まない職場を作る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務課で毎月の職員の時間外労働時間を集計し、経営企画会議で毎月の時間外労働の状況を分析した上で、時間外労働の多い職員への意識改革、業務分担の変更等の指示を行う。(継続)</li> <li>職員の心身の健康維持を図るため、臨床心理士によるカウンセリングや園内研修を計画的に実施する。(継続)</li> </ul>
取組の方向性②	他施設の職員と交流し、横の繋がりを作ることにより、職場の課題や悩みを共有し、ストレスの軽減を図る。また、課題解決に向けた意見交換を行い、解決の糸口を探る場の設定を行う。



行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>三風園支援員部会を開催し、共通の課題や悩みについて情報交換を行う。(継続)</li> <li>臨床心理士による「アンダーコントロール研修等」を実施し、感情をコントロールすることを身につける。(継続)</li> </ul>
取組の方向性③	ユニット間のバランスのとれた職員配置を検討する。また、ユニット間の協力体制を構築することで、休暇を取得しやすい体制を構築するとともに、多目的休暇制度等を定着させることで、互いに遠慮なく有休が消化できるようにする。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員個々が働きやすい職場環境を作るため、勤務表作成時に希望休を取り入れるとともに、負担のかからない勤務になるように配慮する。(新規)</li> <li>ユニット間の協力体制を構築するため、所属ユニット以外のユニットで勤務できるよう、定期的にユニット間交流を行う仕組みを検討する。(新規)</li> </ul>

実 施 施 策	柔軟な働き方
取組の方向性①	個別の事情をある程度考慮し、特に非常勤職員の勤務形態の検討を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員（準職員・非常勤職員）との個別の面談を行い、労働時間や休暇の取得希望などを確認し、勤務改善の検討を行う。(継続)</li> </ul>
取組の方向性②	調理員の早朝出勤の緩和によって子育て世代等の人材確保につなげるため、令和6年度の導入に向けてニュークックチルの導入を検討する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理員の早番の負担軽減のため、ニュークックチルの再加熱調理器のデモ機での試行を行い、導入について検討するとともに、導入後の調理工程の見直しについて検討する。</li> </ul>

## (2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

### ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実 施 施 策	利用者の自己実現へ向け支援体制の構築（人を大切にする優しい心）
取組の方向性①	支援員が意思決定支援に関する研修等に参加することにより、正しく理解をするとともに、共通認識のもとに実践していく。また、表出された意思を個別支援計画へ盛り込み、自己実現に向け取組を推進する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>夕食前の時間を「ほっとタイム」と称して、居室等で利用者の意向を個別に確認する時間を設け、できるだけ利用者の意思の表出場面を増やす。(継続)</li> <li>利用者の意思決定に係る支援の内容を個別支援計画及び栄養ケア計画に盛り込む。(継続)</li> <li>利用者が選択できる活動メニューを検討し、「選択活動」として提供する。(継続)</li> </ul>

取組の方向性②	サービス管理責任者部会を開催し、個別支援計画書作成の手順の確認や目的を再確認し、課題の捉え方、目標の設定方法等について共通認識を持つ。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>三風園のサービス管理責任者部会で、個別支援計画の課題の捉え方や目標設定等について情報交換を行う。(新規)</li> <li>四ツ葉の里サービス管理責任者会議を開催し、四ツ葉の里の現利用者にとってより相応しい日中活動を検討できるよう相互に情報交換を行う。(新規)</li> </ul>

実施施策	記録の統一化
取組の方向性①	ケース記録に関する障害施設での共通の取組として、記録を誰が見てもわかるよう表現方法と記載内容の統一を図るため、現状の記録方法について見直しを行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のフェイスシート情報が更新されていないことから、福祉見聞録の基本情報の有効活用について検討する。(新規)</li> <li>施設内で利用者の記録を入力する際に、項目選択が個々の支援員で違うため、「項目」の統一を検討する。(継続)</li> <li>記録時間を確保するため、活動室やユニット内の自由な場所で記録が入力できるようにWi-Fi環境を整備する。(新規)</li> </ul>

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	権利擁護を実践する施設（人権を護る強い意志）
取組の方向性①	「障がいの理解」「人権・虐待防止」などの園内研修の開催や外部研修への職員派遣を積極的に行い、権利擁護の意識を高める。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権侵害や虐待事例についてユニット会議等で職員が気づきを出し合い共有する。(新規)</li> <li>職員への理念浸透を図るため、緑風園の理念が制定された経緯や意味を文章化する。(新規)</li> <li>OJT面談で研修の希望を聞き取り、可能な限り希望に沿った研修に参加できるよう配慮する。(新規)</li> </ul>
取組の方向性②	利用者、家族等に施設評価アンケートを実施し、評価を職員全体へ周知し、改善することについては、利用者家族へ報告する。また、第三者委員やボランティア、実習生などの第三者を積極的に受け入れることにより、いつもとは違う視点での施設の評価を受け、改善に取り組む。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者、家族等に満足度アンケートを実施し、集約したアンケート結果を職員に周知する。(継続)</li> <li>利用者と第三者委員の面談を積極的に実施する。感染症の状況を見ながらオンラインでも対応できるように配慮する。(継続)</li> <li>利用者と家族との面会時に、担当職員が生活の様子を伝えることで、</li> </ul>

	家族と担当職員との繋がりを強化する。(新規)
<b>実施施策</b>	暮らしやすい居住空間づくり
<b>取組の方向性①</b>	各ユニットの整備や利用者の居室環境の充実など個別に生活しやすい環境の整備を行う。
<b>行動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の居室環境について「ほっとタイム」の時間に意向を聞き、その意向に基づいてサービス担当者会議等で居室環境を検討する。(継続)</li> </ul>
<b>取組の方向性②</b>	防犯設備の充実や門扉の設置など安全に暮らしやすい環境の整備を行う。
<b>行動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯及び災害時への対応に備え、外灯や足もとの整備など施設周囲の環境整備を進めていく。(新規)</li> </ul>
<b>取組の方向性③</b>	機能低下がみられる利用者に対し福祉器具・用具の導入の検討を行う。
<b>行動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能の低下がみられる利用者について、邑智病院の理学療法士に機能評価を実施してもらい、リハビリ方法やベッド周り環境の指導、福祉用具のアドバイス等を受ける。(継続)</li> <li>嚥下機能の低下がみられる利用者について、邑智病院の言語聴覚士に機能評価を実施してもらい、嚥下機能の維持改善に向けた訓練方法、食事形態に関する助言等を受ける。(継続)</li> </ul>

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

<b>実施施策</b>	地域資源としての施設の活用
<b>取組の方向性①</b>	グラウンドやパブリックスペース、機能訓練室などの設備が充実しているため、地域住民へ開放できるよう計画を行う。
<b>行動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラウンドを地域の方に有効活用してもらうため、地域住民と相談しながら整備計画を立てる(継続)</li> <li>グラウンドに合わせてパブリックスペースの整備を行い、地域住民への開放など有効的な活用を検討する。(新規)</li> </ul>
<b>取組の方向性②</b>	園行事や園主催の催し物などを、積極的に地域の人々(子供たち)へ情報提供及び参加を促し交流を図る。
<b>行動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流を目的とした行事やイベントに地域住民が積極的に参加してもらえるよう、広報誌「なないろ」を中野地区の住民へ配布し情報発信する。(継続)</li> <li>近隣地区の老人会等との交流を深めるため、職員を派遣しミュージックケアなどの活動を行う。(新規)</li> </ul>

<b>実施施策</b>	地域から愛され必要とされる施設づくり
<b>取組の方向性①</b>	地域の中で施設を認識してもらうために、地域貢献活動や社会福祉協議会等と連携しての地域とのつながりを今以上に強化する。

行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地産地消を進めるため、地元食材を給食に積極的に取り入れる。(継続)</li> <li>・ 邑南町社会福祉協議会を中心とした地域貢献事業の実施に向け検討を行う。(継続)</li> <li>・ 四ツ葉の里運営協議会を中心に、夏祭り以外の地域交流に繋がる四ツ葉の里全体の行事を検討する。(新規)</li> </ul>
取組の方向性②	行政や関係機関等と協力し福祉サービスを利用されていない方の発掘を行い、社会と結びつける。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度に発足した「邑智郡相談支援事業所連絡協議会」を中心に、社会問題化している潜在した地域ニーズの発掘、住民への啓発等の活動を企画実施する。(変更)</li> </ul>

### (3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

#### ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実 施 策	安定した収入と効率的・効果的な支出
取組の方向性①	ユニットチーフが中心となってユニット単位で物品の購入計画を立て支出を管理することで、計画的、効率的な経費の執行を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユニット単位で物品及び修繕の計画を立て予算化し、支出を管理することで、計画的、効率的な支出につなげる。(継続)</li> <li>・ 当初予算及び補正予算の編成時にそれぞれユニットチーフ及び部会とヒアリングを行い、必要物品、必要な修繕の内容について検討を行う。(継続)</li> <li>・ 夏期、冬期の空調の利用についてユニットチーフとルールを作り、水道光熱費の適正な執行につなげる。(継続)</li> <li>・ 各職員へパワーポイントやZOOMの扱い方を周知することで、施設として資料のペーパーレス化による経費削減や効率的な会議の実施に取り組む。(変更)</li> </ul>
取組の方向性②	物品庫に保管している共用の消耗品物品の品目や商品を検討するとともに、適切な執行を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消耗品の銘柄、ロット等についてはチーフ会議を検討の場として意見を集約し、高い費用対効果が得られるようにする。(変更)</li> </ul>
取組の方向性③	修繕計画に基づき適時修繕及び改修を行っていくとともに、適切な物品の使用、管理について周知し、物品等の破損の減少に努める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車両故障やトラブルが起きないように、職員、業者のそれぞれで定期的な点検を計画し実施する。(新規)</li> <li>・ パブリックスペース及び居住棟廊下の木製サッシの老朽化により気密性が低下し、空調効率の低下により居住環境の悪化や空調の非効率に繋がっていることから、改修を検討する。また、居住棟廊下のサッシの鍵が壊れており、利用者の離園にも繋がっていることから、安全性</li> </ul>

	<p>の高いサッシへの改修を検討する。(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策時にゾーニングが確実にできるよう、ユニット出入口の扉を施錠ができるものに更新する。(新規)</li> </ul>
取組の方向性④	<p>総務課以外の各部署においても緑風園の経営状況を周知し理解を図ることで、経営改善につながる意見を求める。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営企画会議等で園全体の収支状況を確認するとともに、予算編成時に各ユニットチーフへ状況説明を行い、経営改善に向けた取組を検討する。(継続)</li> </ul>

実施施策	<p>目標利用率の維持</p>
取組の方向性①	<p>怪我や病気による入院を最小限にするため、看護師が支援員と連携して利用者の健康管理を行う。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師を2名から3名に増員し、365日勤務して支援員との連携を強化することにより、利用者の体調変化に速やかに対応して、入院を予防できるようにする。(変更)</li> <li>邑智病院から派遣される理学療法士によるリハビリ指導、言語聴覚士による嚥下指導を受けることで、利用者のADLの低下防止に努める。(継続)</li> <li>突発的な退所に備え、定期的に入所待機者の調査を行い、入所待機者名簿を更新する。(新規)</li> </ul>
取組の方向性②	<p>病気の早期発見、治療につなげられるように定期健康診断の項目について検討を行う。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の定期健康診断の項目として腫瘍マーカー検査を継続して実施し、データを蓄積する。(継続)</li> <li>利用者の緊急時の対応に関してあらかじめ意向を確認しておくための意向確認書の様式を検討する。(新規)</li> </ul>

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	<p>利用者の確保と今後の事業展開</p>
取組の方向性①	<p>障害者支援施設の事業の方向性や定員の見直し等について、令和3年度に障がい部会で検討し、令和4年度以降の方向性を決定する。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>四ツ葉の里運営協議会役員・幹事会で「四ツ葉の里の今後のあり方」として、利用者確保策などについて意見交換を定期的に行う。(新規)</li> <li>高齢障がい者の受入れ体制の整備に向けたハード・ソフト面での課題を明確にするため、施設内で検討する機会を設ける。(新規)</li> </ul>
取組の方向性②	<p>グループホームについては、定員の維持が困難な状況であることから、令和3年度中に第2あおば寮の入居者をなでしこに移行し、令和3年度末を</p>

	もって第2あおば寮を廃止の方向で検討する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員を維持するため、積極的に体験利用を実施し、利用につなげる。</li> <li>・ 四ツ葉の里で働く利用者の住まいの場として緑風園グループホームを選んでもらえるよう、四ツ葉の里運営協議会でPR活動等の方法を検討する。(新規)</li> </ul>

実 施 施 策	事業継続の強化
取組の方向性①	利用者、職員がともに緊急時に適切な行動がとれるように、様々な状況を想定した訓練を定期的実施する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員に事業継続計画(BCP)の説明を行うことで周知を図るとともに、災害(火災・地震・風雪等)発生時の通報・避難訓練及び被災時を想定した炊き出し訓練を定期的実施する。(継続)</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の施設内発生時の対応を通して得た課題に基づき訓練計画を見直し、より実践に即した訓練を実施する。</li> </ul>
取組の方向性②	災害時に必要となる物品、設備等を検討し、不足しているものがあれば計画的に整備を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練を行った上で、必要物品・設備を確認し、整備するとともに、賞味、消費期限のあるものはリスト化し、計画的な更新へつなげる。(新規)</li> </ul>

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実 施 施 策	内部牽制体制の強化
取組の方向性①	総務課業務の内容を共有し、進捗状況を把握するとともに、相互のチェック体制を強化することにより、牽制体制を構築する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総務課職員の業務分担を変更することで、互いの業務への理解と共有を図り、牽制体制の強化を進めるとともに、不測の事態に備える。(新規)</li> </ul>
取組の方向性②	より効率的な業務の執行を目指し、事務分掌表の業務分担を検討する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユニットチーフ以外の正規職員を育成するため、ユニットチーフとの業務の振り分けについて検討する。(再掲)(新規)</li> </ul>

実 施 施 策	組織内の連携強化
取組の方向性①	委員会や部会の整理を行うことで業務の効率化を図る。また、それぞれで決定された事項について、職員へ確実に伝わる体制を整備する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土日などは職員配置が少なく、ユニット間の情報連携不足による業務への支障が生じることもあることから、ユニット間でスムーズに連携できる方法を検討する。(新規)</li> <li>・ 福祉見聞録のスケジュール及び掲示板の有効な活用方法について検討</li> </ul>

		する。特に、非常勤職員への情報伝達において、福祉見聞録の活用を図る。(継続)
<b>取組の方向性②</b>		会議の時間が限られる中で、効率的な会議が行えるように運営方法について検討を行う。
<b>行動計画</b>		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 効率的に会議が行えるよう、資料を関係職員に事前に配布しておく。(新規)</li><li>・ 会議を効率よく進行できるようにするため、会議進行者となる職員を対象にファシリテーション技術の向上に関する研修を実施する。(新規)</li></ul>

## 3 目標利用率

事業名	令和3年度実績	令和4年度見込	令和5年度目標
施設入所支援	87.7%	81.4%	88.2%
生活介護（定員90名）	90.0%	85.5%	—
生活介護（定員80名）	—	—	99.0%
短期入所	6.5%	15.3%	20.0%
共同生活援助	89.9%	86.0%	97.0%
相談支援（計画作成件数）	6件/月	8件/月	8件/月
相談支援（モニタリング件数）	17件/月	12件/月	13件/月

## 4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

項目	数量	執行見込額（税込）
消毒保管庫	1	
ガス給湯器	1	
デスクトップパソコン	6	
ノート型パソコン	2	

## 5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

(単位：千円)

項目	執行見込額（税込）
照明器具更新（活動室）	
照明器具更新（廊下等）	
居室フローリング工事（あけび）	
転倒事故防止対策工事（たんぼぼ）	
トイレ洋式化工事（きり）	
ユニット入口鍵取付け工事	
居室壁修繕工事（いちょう）	

## 6 大規模修繕計画

(単位：千円)

項目	執行見込額（税込）
該当なし	